

透析患者はますます高齢化しており、種々の合併症のために生命維持が困難な患者が増加している。さらに認知症の患者も増加しており、人生の最終段階を迎えた透析患者への関わり方が重要な課題となってきた。

2014年、日本透析医学会より「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」が発表された。本特集では、この提言作成の背景について概説していただき、さらに全国アンケート調査結果の紹介をしていただいた。維持透析の現場だけでなく日本救急医学会、日本集中治療医学会および日本循環器学会においても終末期医療におけるガイドラインが提言されており、紹介いただいた。また、透析医療の現場の状

況としては、急性期病院、腎専門病院における意思決定プロセス、透析差し控え・中止の現状、事前指示書の運用について紹介いただいた。在宅看取りについては、在宅PDによる看取り・訪問診療医によるHD患者の在宅看取りの現況と課題を紹介いただいた。さらに終末期の管理として、栄養管理への関わり・緩和ケアとしての薬物療法の実践について解説いただき、看取りをした家族にどのように寄り添い、援助したらよいかグリーフケアの実践についても解説いただいた。

本特集が人生最終段階を迎えた透析患者への関わり方に大いに参考になることを願っている。

(原田孝司)

2018年(Vol.34)特集のご案内

- | | |
|---|-------------------------------------|
| No.① 透析患者のがん対策〔特大号〕 | No.⑦ 〔増刊号〕透析医療と合併症 キュア&ケアガイドブック |
| No.② 透析患者のリハビリテーション
—訓練と支援 | No.⑧ 透析患者の余暇とレクリエーション |
| No.③ キュアとケアをつなぐナースング
スキル | No.⑨ 小児腎不全—移行期医療の管理 |
| No.④ 求められる透析液清浄化—改訂された
透析液水質基準の意味するところ | No.⑩ 透析患者の人生の最終段階への
関わり方 |
| No.⑤ 透析患者の体力と認知力を考える
—患者と家族が満足するキュアとケア | No.11 透析食の調理者と透析患者 |
| No.⑥ 透析室の感染症へどう対応するか
〔特大号〕 | No.12 2025年に向けた透析室のキュアとケア
(既刊は○) |

臨牀透析® Vol.34 No.10

©2018年9月10日発行
定価：(本体2,400円+税)

年間予約購読料は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center Inc. ©2018, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 電話(03)3814-8541